

秋田市食品ロス実態調査報告書

令和2年7月22日版

1 実施概要

■実施日時	令和2年5月28日（木）29日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター 旧焼却棟ステージ
■作業時間	8:30～17:00（昼食休憩1時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ12名（地域別家庭ごみ組成調査） 作業員のべ6名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ6名（食品ロス調査）
■調査試料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ100袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。 ・ 調査資料である100袋の地区別の収集数は、中央地区、東部地区、西部地区、南部地区、北部地区、河辺・雄和地区の6地区の人口構成比により以下のとおりとした。 【5月28日】 中央地区（檜山11袋）、東部地区（東通り10袋）、西部地区（新屋元町又は日吉町5袋）、南部地区（御所野8袋）、北部地区（下新城野6袋、金足6袋）、河辺・雄和地区（河辺4袋） 【5月29日】 中央地区（川尻6袋、大町6袋）、東部地区（添川4袋、旭川4袋）、西部地区（新屋勝平町6袋）、南部地区（上北手8袋）、北部地区（飯島12袋）、河辺・雄和地区（雄和4袋） ・ 調査試料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100世帯分程度のごみ袋又は生ごみで100kg～150kg程度」としていることを踏まえ、上記100袋に含まれていた生ごみ約121kgとした。

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- ・ 調査対象となる100袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重さを計量した。
- ・ 食品廃棄物のうち、手つかず食品（100%残存・50%以上残存・50%未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・ 手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表 1）、6 地区の 100 袋の合計重量は 365.62kg、1 袋あたりの平均重量は約 3.7kg であった。地域別に見ると、①中央地区は 23 袋で 70.7kg、②東部地区は 18 袋で 51.7kg、③西部地区は 11 袋で 53.8kg、④南部地区は 16 袋で 52.9 kg、⑤北部地区は 24 袋で 93.9 kg、⑥河辺・雄和地区は 8 袋で 42.7 kg であった。

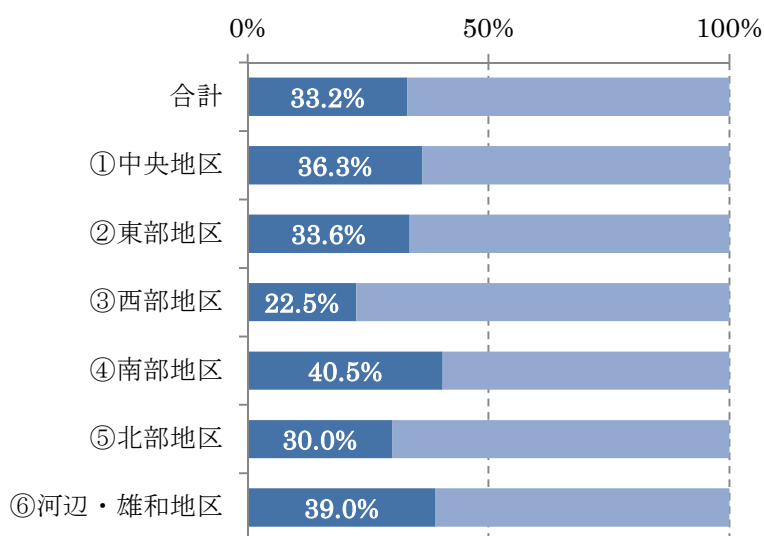
図表 1 調査対象とした試料概要（秋田市）

	袋数(個)	重量 (kg)	容量 (L)	袋あたり	
				重量 (kg)	容量 (L)
合計	100	365.62	3,530	3.7	35.3
① 中央地区	23	70.70	800	3.1	34.8
② 東部地区	18	51.73	550	2.9	30.6
③ 西部地区	11	53.75	480	4.9	43.6
④ 南部地区	16	52.86	550	3.3	34.4
⑤ 北部地区	24	93.88	820	3.9	34.2
⑥ 河辺・雄和地区	8	42.70	330	5.3	41.3

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表 2）、6 地区の合計では 33.2%、地域別に見ると④南部地区が最も高く 40.5%、次いで⑥河辺・雄和地区の 39.0%、①中央地区の 36.3%、②東部地区の 33.6%、⑤北部地区の 30.0%、③西部地区の 22.5%となっている。

図表 2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



(単位:kg)

	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄物割合 C(=B/A)	食品廃棄物以外 D(=1-C)
合計	365.62	121.30	33.2%	66.8%
①中央地区	70.70	25.63	36.3%	63.7%
②東部地区	51.73	17.38	33.6%	66.4%
③西部地区	53.75	12.11	22.5%	77.5%
④南部地区	52.86	21.39	40.5%	59.5%
⑤北部地区	93.88	28.12	30.0%	70.0%
⑥河辺・雄和地区	42.70	16.67	39.0%	61.0%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

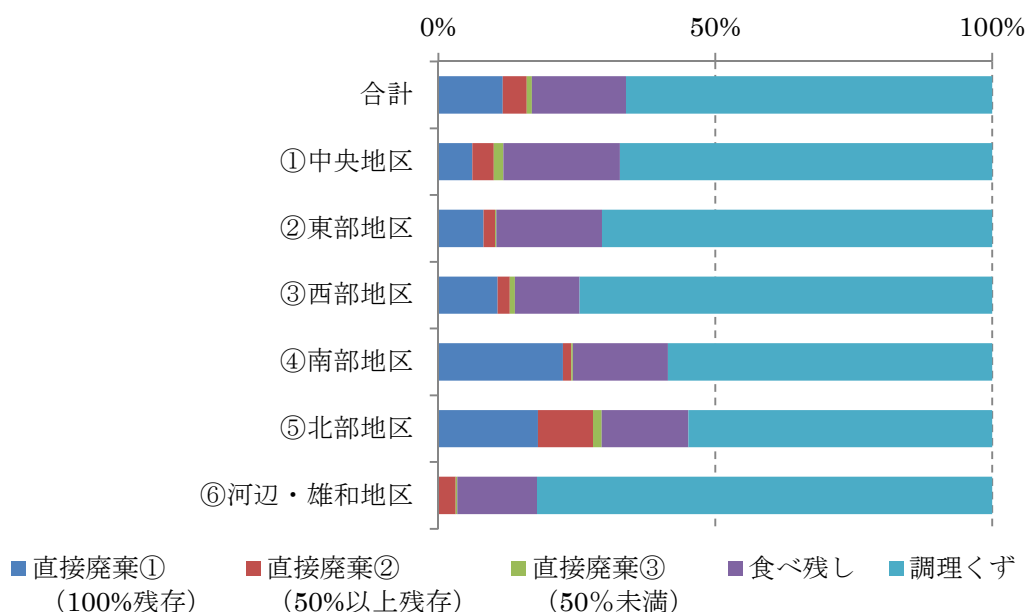
食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表3）、6地区の合計では32.1%、地区別に見ると⑤北部地区が最も高く42.5%、次いで④南部地区の39.2%、①中央地区の30.9%、②東部地区の28.1%、③西部地区の24.5%、⑥河辺・雄和地区の17.0%となっている。地区ごとに食品ロスの割合は異なり、⑤北部地区の食品ロスの割合は、⑥河辺・雄和地区よりも25.5ポイント高い。

直接廃棄に着目すると、6地区の合計では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち11.0%を占めており、④南部地区で21.3%と高く、次いで⑤北部地区が16.9%、③西部地区が10.3%、②東部地区が7.7%、①中央地区が5.8%、⑥河辺・雄和地区が0.0%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6地区の合計では16.1%、①中央地区が19.9%と高く、次いで、②東部地区の18.2%、③西部地区が最も低く11.2%となっている。

図表3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	32.1%	11.0%	4.1%	0.9%	16.1%
①中央地区	30.9%	5.8%	3.7%	1.6%	19.9%
②東部地区	28.1%	7.7%	2.0%	0.2%	18.2%
③西部地区	24.5%	10.3%	2.1%	0.9%	11.2%
④南部地区	39.2%	21.3%	1.4%	0.3%	16.2%
⑤北部地区	42.5%	16.9%	9.4%	1.5%	14.7%
⑥河辺・雄和地	17.0%	0.0%	2.9%	0.3%	13.7%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

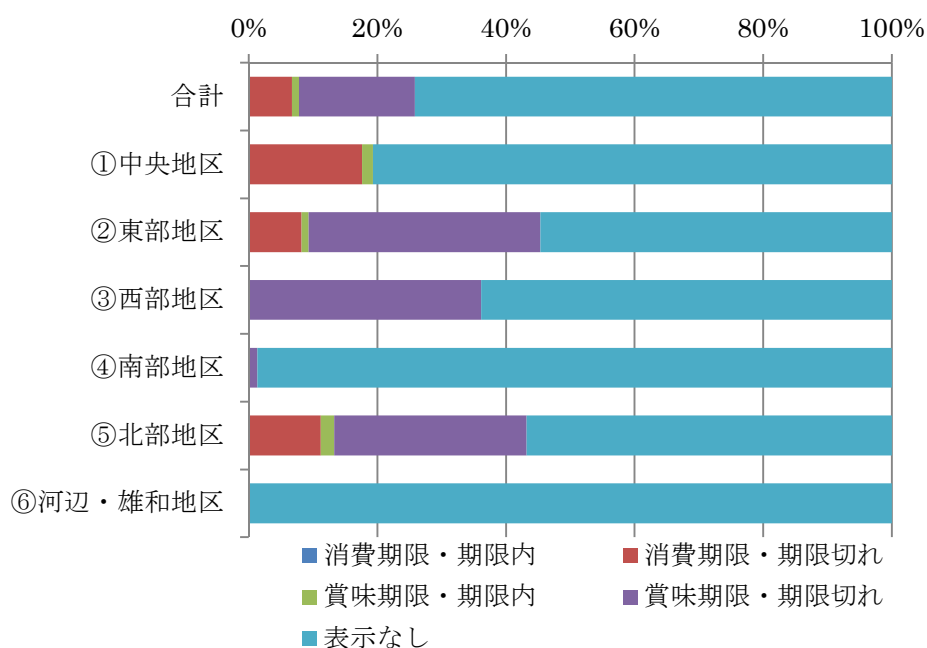
(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く74.2%であり、消費期限の表示があったものは6.7%（期限切れのみ）、賞味期限の表示があったものは19.1%（期限内が1.1%、期限切れが18.0%）となっている。

消費期限に着目すると、全ての地区で「期限切れ」となっており、①中央地区が17.6%と最も高かった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち1.1%、地区別に見ると⑤北部地区が最も高く2.1%となっている。

図表4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
	合計	0.0%	6.7%	1.1%	
①中央地区	0.0%	17.6%	1.7%	0.0%	80.7%
②東部地区	0.0%	8.2%	1.1%	36.1%	54.6%
③西部地区	0.0%	0.0%	0.0%	36.1%	63.9%
④南部地区	0.0%	0.0%	0.1%	1.2%	98.7%
⑤北部地区	0.0%	11.2%	2.1%	29.9%	56.8%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

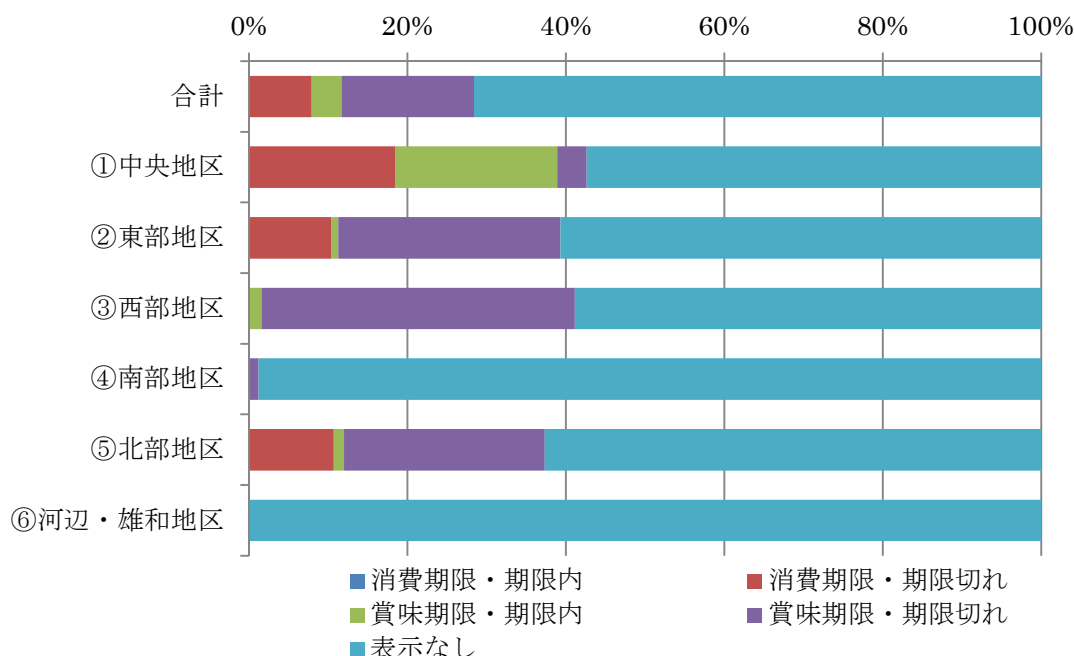
※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表5）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く71.6%であり、消費期限の表示があったものは7.9%（全て期限切れ）、賞味期限の表示があったものは20.4%（期限内3.7%、期限切れ16.7%）となっている。

消費期限に着目すると、全て「期限切れ」となっており、①中央地区が18.5%と最も高かった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち3.7%、地区別に見ると①中央地区が最も高く20.4%となっている。

図表5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	7.9%	3.7%	16.7%	71.6%
①中央地区	0.0%	18.5%	20.4%	3.7%	57.4%
②東部地区	0.0%	10.4%	0.9%	28.0%	60.7%
③西部地区	0.0%	0.0%	1.6%	39.6%	58.9%
④南部地区	0.0%	0.0%	0.1%	1.1%	98.8%
⑤北部地区	0.0%	10.7%	1.3%	25.3%	62.7%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

(4) 一人1日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、平成31年度の実績を参考に一人1日当たりの食品ロス発生量を推計すると53.7g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が26.8g/人・日、食べ残しが26.9g/人・日と推計された。

図表6 一人1日当たりの食品ロス発生量（秋田市）

